

踏まね踏まれても生き返る

NO.2 2024.5.5

編集：発行 木村松夫

090-8646-9757

matsuokimura@gmail.com

# いたばし 雑草通信

メール発信のみの情報紙です。無料購読希望の方はメールでお申込みください。PDFでお送りします。

桜が散って、いよいよ春爛漫になったと思えば、もう5月の連休が終わって夏になってきました。赤塚公園の植物モニタリングばかりでなく石神井川の定期観察活動からも撤退したので、この春は季節の移り変わりを直に感じとらないまま過ごしていました。最近では自宅の近くの空き地や道路を眺めながら散歩していますが、今までしっかりと見てこなかった「路傍の草」。これも面白いですねえ。

## 今どき街角のどこにでも生えている草

オッタチカタバミ カタバミ科

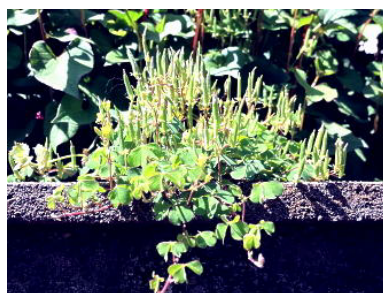


ノミノツヅリ ナデシコ科

### オッタチカタバミの“正しい見方”

築50年の家を取り壊されて空き地になった場所では、春先はハコベの仲間が一面に咲いていて、しばらくするとホトケノザに入れ替わり、今はオッタチカタバミが全盛です。春先は普通のカタバミが目立っていたと思うのですが、4月の終わりからはこの場所ばかりでなく町じゅうがオッタチカタバミだらけになっていました。でも、左上の写真のように、人が上から見下ろしては、普通のカタバミとどこが違うの？ です。左下のように、被写体と並行になる位置になるまで視線を下げみると、花がついている茎に葉も一緒にせり上がっているのがよくわかります。

普通のカタバミはすでに開花期が終わって実になっていて



←これですが、花茎は立ち上がっていません。日陰では光を求めて花が立ち上がってくることはあるのですが、葉は立ち上がらないので見分けがつかず。

次ページはナデシコ科について



# ナデシコのイメージは華やかなのが「大和撫子(やまとなでしこ)」か

街角でよく見られるナデシコ科の植物は鮮やかですね。昔、我が家の庭に植って、花の直下の茎にねばねば仕組みになっている面白い植物でクよりは素朴で、しかし5弁にれたものです。「なでしこ」とい「なでしこジャパン」のような凜(りん)ですが、大人になって植物観察をするま



この園芸植物っぽいセキチクという花。色がえられていたのはムシトリナデシコとがあって、それに虫が絡みとられるした。花の色は赤系ですがセキチ開いた花びらの律儀な咲き方に見とると、セキチクのような華やかさと、とした印象の両方が目に浮かんでくるので、その印象は消えませんでした。

## 直径3mmに広がるこの律義さ

前のページ上段右は普通の見下ろしたのですが、道路端のあちこちに生えているので、これを「見なかった」という人はいないでしょう。でも誰も何とも思わないか、細い茎と小さな葉がもしやと高さ20以上に立ち上がっている姿を「邪魔な草だ」としか感じない人がほとんどです。

地面にしゃがみこんで、この花をよく観察するとすごいです。直径3mmの白い花弁が5枚、なんと律儀な花が開いているではありませんか。

ハコベの仲間もナデシコ科なのですが、昔、ムシトリナデシコを見て得た印象は華やかさよりも律義さだったのかと、思い直しました。



## 同じナデシコ科でもハコベはハコベ

さて、このごく小さな花、あちこちに元気に咲いていてうれしくなるのですが、気を付けてみると、あれれ！ 花弁が10枚あるのがあります。正しくは5枚の花弁の1片がそれぞれ2つに裂けているのですが、これもノミノツヅリかなと思うと大間違い。こっちはノミノフスマという別の種なのです。

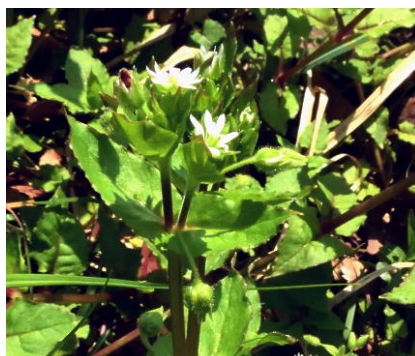
同じナデシコ科でも「ツヅリ」さんがノミノツヅリ属、「フスマ」君はハコベ属。所属するプロダクションが違うんだからややこしい。そこで、ハコベの仲間の写真を見てみると、ハコベ属は確かに花弁がウサギの耳のように2つに裂けていました



ノミノフスマ

## ウシハコベ

ウシ〜は、大型で茎は茶色。通常、秋が深まってから開花。ミドリ〜の開花は春。茎は緑色。茶色になるとコハコベと言われるが見分けは難しい。このほかにも、ツメクサというもっと小さいのとかオランダミミナグサという少し大きいのがありますが、これまた所属が異なって、これ以上は脳細胞の限界。思考停止！



ミドリハコベ

